

青森県教育委員会第736回定例会会議録

期 日 平成22年5月12日（水）

場 所 教育庁教育委員会室

議事目録

- | | |
|-------|--|
| 報告第1号 | 行政文書一部開示決定処分に対する異議申立てに係る決定について |
| 議案第1号 | 平成22年度青森県教科用図書選定審議会委員の人事について・・・・・・
・・原案決定 |
| 議案第2号 | 青森県立図書館協議会委員の人事について・・・・・・・・・・・・・・・・原案決定 |
| 議案第3号 | 青森県古式銃砲刀剣類登録審査委員の人事について・・・・・・・・原案決定 |
| その他 | 縄文時遊館新展示室オープンについて |

平成22年5月12日（水）

- ・開会 午後1時30分
- ・閉会 午後2時05分
- ・出席者の氏名
鈴木秀和、福島哲男、島康子、清野暢邦、橋本都（教育長）
- ・説明のために出席した者の職
川村教育次長、白石教育次長、川村参事、教育政策・学校教育・教職員・生涯学習・スポーツ健康・文化財保護各課長
- ・会議録署名委員
島委員、清野委員
- ・書記
鈴木学、中村尚吾

会 議

議事

報告第1号 行政文書一部開示決定処分に対する異議申立てに係る決定について (非公開の会議につき記録別途)

議案第1号 平成22年度青森県教科用図書選定審議会委員の人事について (中村学校教育課長)

今年度は、平成23年度に小学校で使用する教科用図書、特別支援学校の小学部及び中学部並びに小学校・中学校の特別支援学級で使用する教科用図書の採択を行うことになっている。

都道府県の教育委員会は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、市町村教育委員会等が行う採択に関する事務について、採択基準の作成などにより適切な指導、助言又は援助を行わなければならないこととなっており、指導等を行おうとするときは、あらかじめ教科用図書選定審議会の意見を聞かなければならないこととなっている。

審議会は、条例により17名の委員で構成し、毎年選任することになっているので、今年度は、資料の名簿に掲げる方々を任命したいと考えている。

なお、任期については、第1回青森県教科用図書選定審議会の開催日である平成22年5月17日から平成22年8月31日までとしている。

(鈴木委員長)

何か質問、意見はあるか。

なければ、議案第1号は原案のとおり決定することに異議はないか。

(全委員)

異議なし。

(鈴木委員長)

議案第1号は原案どおり決定する。

議案第2号 青森県立図書館協議会委員の人事について

(松田生涯学習課長)

図書館法及び青森県立図書館協議会設置条例により設置している青森県立図書館協議会

委員の任期が、平成22年5月12日で満了となるので、新たに10名の委員を任命するものである。

学校教育関係者として、乙 山和子氏、山内 倫氏の2名、社会教育関係者として前田敏子氏、澤田百合子氏の2名。平成20年の図書館法改正により新たに加えられた家庭教育の向上に資する活動を行う者として小川千恵氏。学識経験者としては、工藤征洋氏、六角正人氏、田嶋知宏氏、辻 敏雄氏、中 村雅胤氏の5名。学識経験者のうち、辻敏雄氏及び中 村雅胤氏は、公募によって選考した委員である。

また、委員のうち、学識経験者の工藤征洋氏のみが再任で、その他の委員は新任となっている。

なお、委員の任期は、平成22年5月13日から平成24年5月12日までの2年間である。

(鈴木委員長)

何か意見、質問はあるか。

(清野委員)

公募について、どのように行ったのか。また、応募は何人ぐらいあったのか。

(松田生涯学習課長)

平成22年度の1月20日(水)から2月19日(金)を公募期間とし、新聞、県ホームページ等で広く県民に周知したところ、3名の応募があり、生涯学習課長、県立図書館長らによる選考で2名を適任と判断した。

(鈴木委員長)

ほかに何か意見、質問はあるか。

(島委員)

新たに「家庭教育の向上に資する活動を行う者」として1名が候補に上がっているが、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」という分野を設けた意図は何か、また、具体的にはどういう者を指すのか。

(松田生涯学習課長)

平成13年の社会教育法改正により社会教育委員などに「家庭教育の向上に資する活動を行う者」を委嘱できるよう規定され、家庭教育の向上が重要とされてきた。また、平成20年の図書館法改正においても同様に規定されたため、今回「家庭教育の向上に資する活動を行う者」を専攻分野に加えたものである。

具体的には、例えば、子育て中の親が任意に集まり親子のふれあいや仲間作り等を目的に活動を行う子育てサークルのリーダーや、子育てサポーター等自らの子育て経験を活か

すことにより家庭教育に関する悩みや不安を抱く親からの相談に対応したり情報提供を行う者、家庭教育に関する相談員や児童福祉士などである。

候補者は、平成17年1月からNPO法人 むつ下北子育て支援ネットワークの代表理事を務め、平成21年6月にはむつ市の委託「ファミリーサポートセンター事業」を運営するなど、地域の子育て支援事業に積極的に取り組んでおり、県立図書館が子どもの読書活動の推進を図るうえで、子育て支援の立場から貴重な意見がいただけるものと考えている。

(鈴木委員長)

ほかに何か質問、意見はあるか。

なければ、議案第2号は原案のとおり決定することに異議はないか。

(全委員)

異議なし。

(鈴木委員長)

議案第2号は原案どおり決定する。

議案第3号 青森県古式銃砲刀剣類登録審査委員の人事について

(岡田文化財保護課長)

青森県古式銃砲刀剣類登録審査委員の任期が、平成22年5月12日をもって満了するので、杉本孝^{すぎもとたかし}氏を新たに任命するとともに二唐俊^{にからしゅん}氏ほか3名を再任するものである。

なお、委員の任期は、平成22年5月13日から平成24年5月12日までの2年間である。

(鈴木委員長)

何か意見、質問はあるか。

(福島委員)

委員は年齢層が高いようである。後継者の問題もあるのだろうが、若い方というのはいないのか。

(岡田文化財保護課長)

青森県古式銃砲刀剣類登録審査委員の候補者資格基準要項により選考している専門的知識・経験を有する方、美術・古美術品、銃砲刀剣類の売買仲介を行っていない方、銃砲刀剣類所持等取締法に違反していない方、原則として80歳以下の方としておるが、極めて専門的知識・経験を有することから、長年の経験を有する者が選考されてる。

(福島委員)

60歳、70歳に満たない者で資格を持つ者は県内にいないのか。

(岡田文化財保護課長)

長年の経験を有し、専門的知識・経験を有する者となると県内にはいない。このため、若手の育成について、ベテランの委員を介してお願いしているところであり、将来的には若い人材の登用も見込まれるものと考えている。

(鈴木委員長)

ほかに何か質問、意見はあるか。

なければ、議案第3号は原案のとおり決定することに異議はないか。

(全委員)

異議なし。

(鈴木委員長)

議案第3号は原案どおり決定する。

そ の 他 縄文時遊館新展示室オープンについて

(岡田文化財保護課長)

三内丸山遺跡では、昨年度改修整備した縄文時遊館新展示室を7月9日(金)にオープンする。

新展示室では、「縄文人の生きる姿」をメインテーマに三内丸山遺跡を総合的・体系的に紹介することとしている。また、これまで展示できなかった重要文化財を展示するほか、豊富な実物資料を主体とした本物を体感できる展示とする。さらに、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」をはじめとする縄文遺跡、縄文文化についても幅広く紹介する。

オープンを記念し、オープニングセレモニーを当日の午後1時30分から新展示室前で開催することとし、テープカットでは知事をはじめ地元小学校児童代表を予定している。

また、記念イベントとして講演会を開催することとしている。

(鈴木委員長)

何か意見、質問はあるか。

(清野委員)

展示する重要文化財は、どのようなものを考えているのか。また、今までの展示室はどうなるのか。

(岡田文化財保護課長)

展示する重要文化財としては、大型板状土偶や通称「縄文ポシェット」等を予定している。また、現展示室は、展示を行わないがトイレ等の利便施設が残っているため、当面利便施設として継続使用する。ただし、将来的には国の特別史跡の指定地域内であるため撤去する予定である。

(島委員)

縄文時遊館は、年間何人くらいの来場者があったのか。また、新展示室オープンに伴い、どのくらいの来場者を期待するのか。

(岡田文化財保護課長)

昨年度の入場者の実績は、33万7千人で前年度比7%増となっている。遺跡公開以来、これまで570万人が見学に訪れている。新展示室オープンにより、より多くの方に見学いただけると期待している。

(鈴木委員長)

ほかに何か質問、意見はあるか。

なければ、縄文時遊館新展示室オープンについては了解した。